

単位数	2 単位	学科・学年・学級	普通科・1年 1組～8組
教科書	高等学校 新公共(第一学習社)	副教材等	ニュービジョン 公共 (浜島書店)

1 学習の到達目標

<p>人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>・現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</p> <p>・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</p>

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
第1学期	4	第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち 第2章 公共的な空間における人間としての在り方生き方	1、社会に生きる私たち 2、個人の尊厳と自主・自律 3、多様性共通性 4、伝統文化とのかかわり	社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることを学ぶ。古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	5		5、自立した主体をめざして 6、人間と社会のあり方についての見方・考え方	古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を理解する。選択・判断の手掛かりとなる考え方を活用し、環境保護や生命倫理など実社会の問題を考える。	
	7	6	第3章 公共的な空間における基本的原理	7、人間の尊厳と平等/個人の尊重 8、私たちと政治、民主主義 9、私たちはどこまで自由か 10、大日本帝国憲法と日本国憲法/日本国憲法の成立/憲法に生きる基本的原理/憲法の最高法規	古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、公共的な空間における基本的原理を理解する。人権保障のあゆみや世界の政治体制、日本国憲法などを通して、公共的な空間における基本的原理が、現代社会でどのような形で生かされているかを理解する。
				期末考査	
学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
第2学期	9	第1章 法的な主体となる私たち	11、法とは何か 12、憲法と基本的人権 13、自由権 14、法の下での平等 15、社会権・環境権・プライバシー権 16、知る権利 17、契約自由の原則 18、消費者の自立 19、司法権の独立	法やルールを定める時には、どのようなことに配慮する必要があるかを理解する。身の回りの偏見や差別・不平等、自由権が保障されていない問題について理解し、その解決策を考える。安全で豊かに生き、法をよりよいものにするための権利や、それを実現するための法・規範を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	10	第2章 政治的主体となる私たち	20、民事裁判と刑事裁判 21、選挙の意義と基本原則 22、日本の選挙制度 23、内閣と議院内閣制 24、地方自治の課題	契約が対等な当事者間の合意と言えらるための条件を理解する。個人や社会の紛争を法に基づいて公正に解決するために必要な仕組みと、国民が果たすべき責任を理解する。民主政治を推進するために、私たちが果たすべき責任を理解する。主権者である国民と国会・内閣の関係を理解する。	

第2学期	11	第3章 経済的な主体となる私たち	25、国際社会の仕組み 26、憲法と自衛隊	主権国家が並び立つ国際社会は、どのように成り立っているのかを理解する。 日本国憲法の平和主義の下、私たちが果たすべき責任を理解する。 国際社会における日本の役割を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	12		27、紛争の背景・難民問題 28、3つの経済主体	経済の基本的な仕組みを理解し、経済的意思決定が将来の選択に役立つことを理解する。	
期末考査					
学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
第3学期	1		29、市場経済と政府の役割 30、金融の仕組み	公正で自由な経済活動を通して、市場が効率的な資源分配を実現できる仕組みを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	2		31、租税の課題 32、国際収支とその動向	少子高齢化が進む中で、財政や社会保障を持続可能なものにするために、政府はどのような役割を果たしていくべきなのかを理解する。 外国為替相場の変動が及ぼす影響やその要因について理解する。	
	3		33、外国為替相場 34、地球温暖化と国際的な取り組み 35、人口問題の国際的な取り組み	経済発展の負の影響として、地球環境問題や資源・エネルギー問題を理解する。	
学年末考査					

3 評価の観点

知識・技能	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。
思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。
主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

授業は基本的にプリントを使用します。定期考査前に点検しますので、しっかりとファイルに綴じ込んだり、ノートに貼ったりしておいてください。授業では積極的に発言をして、グループワークなどでも隣の人や班の人と意見を交わすことに躊躇わないでください。間違えることを恥ずかしがらないで、どんどん思考を巡らせて考える事を止めないでください。最後になりますが、メリハリが最も大切です。話を聞くととき、話し合いをするときの分別をつけて授業に参加してください。